常盤薬品

NOEVIR GROUP

常盤薬品工業株式会社
〒106-6031 東京都港区六本木1-6-1
泉ガーデンタワー31F
2009年3月24日

ノエビアグループの常盤薬品工業は、タウリンの経口投与による水泳運動量に与える影響を明らかにしました。

『日本農芸化学会 2009 年度大会』にて

概要

ノエビアグループの常盤薬品工業株式会社は、富山大学・和漢医薬学総合研究所（松本 欣三^{きんぞう}教授）協力の下、タウリンの運動への作用に関する研究を行っております。今回、タウリン投与による水泳運動量の増加に影響を与える事を明らかにしました。

研究成果は 2009 年 3 月 27 日（金）～29 日（日）『日本農芸化学会 2009 年度大会』（福岡国際会議場・マリンメッセ福岡）にて発表いたします。

研究目的

タウリン（アミノエチルスルホン酸）は血中脂質や肝機能の改善作用を持つことが知られていますが、水泳運動量への作用についての報告は多くはありません。そこで本研究では、タウリンの経口投与がマウスの水泳運動量に与える影響について検討しました。

試験方法

7 週齢 ICR 系雄性マウスにタウリン 10 mg、50 mg、300 mg/kg、または対象として蒸留水を連日経口投与しました。投与開始より 6 週間後まで 2 週間ごとに、小動物行動解析装置 SCANET MV-20plus※ を用いて水泳運動量を解析しました。水泳運動量は、10 分間の強制水泳時における 1 分間あたりの平均運動回数と平均運動時間として測定しました。

※melquest 社製・高密度に配置した赤外線センサーを用い小動物の行動を解析できる装置

試験結果

初回測定値（投与 2 週間後）に対する運動量増加率を算出すると、タウリン 10 mg/kg 群で投与 4、6 週間後に運動回数、運動時間ともに対照群より有意に増加しました。それ以上の濃度では対照群と変わらないことが分かりました。

本試験により、適量のタウリンを経口投与すると水泳運動量が増加することが分かりました。またその運動量増加には限界があり、一定期間以上投与しても変わらないことが分かりました。